

令和 7 年度 ゆたか小学校
第 5 回 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）議事録

1. 開催概要

- ・ 日時： 令和 8 年 3 月 6 日（金） 9:00～10:20
- ・ 場所： ゆたか小学校 会議室
- ・ 参加者： 宜保樹・長嶺吉起・譜久村さつき・竹内清文・渡辺秋子
村社真知子・宮城美智子・松本靖広・上原義仁・棚原綾乃
- ・ 主な議題： 今年度の学校評価の分析と改善策、地域・家庭との連携、次年度に向けたコミュニティ・スクールの展望について

2. 学校評価の分析と今後の学校づくり

今年度の学校評価において、「学校が楽しい」と回答した児童が 94%に達した。これは大変喜ばしい成果であり、いけないことはしっかりと指導し、愛情を持って接する先生方の姿勢が、子供たちや保護者から高く評価されている結果と受け止めている。



■ 今後の改善策と具体的な取り組み

- ・ 「相談しやすい環境」のアップデート： より一層、児童が安心して先生に相談できる環境づくりのため、教職員の「傾聴スキル」の向上に努める。子供たちと同じ目線に立ち、心に寄り添う対話を学校全体で心がけていく。
- ・ 学校ビジョンの共有と対話の促進： 校長の理念や学校の目標を教職員間でさらに深く共有し、一枚岩となって教育活動に取り組む。
- ・ バランスの取れた学校運営と働き方改革： 学校評価への対応については、本校の特色や目標と照らし合わせ、バランスを取りながら改善を進める。また、教職員の働き方改革も視野に入れ、アンケート等の負担軽減を図りつつ、保護者と教職員が共に歩み寄り、対話を通して建設的に課題解決に向かう姿勢を大切にする。

3. 児童の健全育成と安心・安全な環境づくり

マンパワーが限られる中、先生方一人ひとりが児童の個性を大切にしながら奮闘している様子が共有された。また、ピアス等の禁止を含め、児童の安全を守るための指導が、安心できる学校環境につながっていると評価された。

■ 今後の改善策と具体的な取り組み

- 「挨拶」の習慣化に向けた家庭との連携： 学校内でも教職員が挨拶運動に取り組んでいる。今後は、この素晴らしい輪を家庭教育にも広げ、ご家庭での挨拶の習慣化に向けて保護者の皆様へ協力を呼びかけていく。
- 誰一人取り残さないために： 「学校が楽しくない」と感じている児童への配慮を課題の一つと捉えている。関係機関や教職員間で密に情報共有を行い、登校渋りのある児童や保護者に対して、電話やメッセージによる温かい声かけを粘り強く継続していく。
- 教職員のロールモデルとしての意識向上： 教職員が自らの言葉遣い（児童への適切な呼称など）を常に見直し、大人として、また教育者として、子供たちの良き手本となるよう自己研鑽に努める。
- 「8:00 児童玄関解錠」の運用と安全確保： 児童の安全確保と教職員の勤務時間管理を両立するため、児童玄関の解錠を 8:00 とする運用について、根拠を明確にした上で保護者の皆様へ早期に周知を図る。また、解錠を待つ間の児童の安全確保について、地域でどのようなサポートができるか、コミュニティ・スクール全体で前向きに検討を進める。

4. 地域・保護者連携と次年度に向けた展望

今年度は、「ゆたかっこ祭り」の大成功をはじめ、学校・地域・PTA の三者を強固につなぐことができた実りある一年となった。この交流と連携の基盤は、本校の大きな財産である。

■ 今後の改善策と具体的な取り組み

- 保護者が参加しやすいPTA 活動へのチャレンジ： 担任と保護者が対話できる機会を求める声が多いことから、今後はPTA とも連携し、保護者がより学校に関わりやすく、気軽に足を運べるような開かれた環境づくりにチャレンジしていく。
- 「熟議」を通じた持続可能なコミュニティ・スクールへ： 今年度の活動を礎とし、次年度は明確なテーマを設定した「熟議」の機会を積極的に設ける。コミュニティ・スクールとしての長期的なビジョンを描き、無理なく持続可能な取り組みを、地域と共に少しずつ、確実に進めていく。

【まとめ：次年度へ向けて】 第5回会議では、本校の強みと今後の伸びしろが明確になった。いただいた貴重な意見は決してネガティブなものではなく、ゆたか小学校がさらに飛躍するための「ポジティブな改善の種」である。今後も「学校・家庭・地域」が手を取り合い、子供たちの笑顔があふれる学校づくりに邁進していく。

